

## セミナールーム十訓より一「解法を暗記するな、考え方を理解せよ」

長かった夏休みも終わり、いよいよ2学期が始まりました。毎日3時間半の特訓と確認テスト（合計88枚）の受験と直しと追試を、誰一人脱落することなくやりきった中3生。部活との両立が大変な中、指示された理社国の確認テストを受けきろうと、授業日以外の日にまで塾に来て勉強していた中1、2生。暑い中、皆本当によく頑張りました。気候のよくなる2学期、さらに元気に頑張りましょう。

さて、今月もセミナールーム十訓の解説です。

わからない問題に出会ったとき、それをあきらめてしまう人は別にして、「わかろう」とすると2通りの道があります。一つは答えの出し方（解法）を覚えること。英語ならその文の訳を暗記するといったところ、数学（算数）ならば有名ところで「速さ」の「はじき図」を覚え、それを使って答えを出すといったところです。最近はこの勉強法でも学校の試験程度は何とかなるケースが多いため、一見成績が優秀な人にも結構見られます。そして本人はこれが勉強だと思い込んでいるためひたすら覚えます。しかも総じてこのタイプの人是非常に記憶力がよいものです。よすぎるために一度解いた問題は覚えてしまったりします。しかし、同じパターンでないと手も足も出なくなることがあり、本人は「応用が苦手」と勘違いしていることがあります。本当は根本がわかっていないのに、です。

もう一つは「なぜそのように解けるのか」にこだわること。英語なら訳を見た上でも、どの単語が主語でどの単語が動詞でどれが何を修飾しているのかをはっきりさせようということ、数学の「速さ」なら解答の式を見た上でも、わり算、かけ算の意味をもとに一つ一つの式が出しているものは何なのかを考えることです。ただ、これは往々にして時間がかかるため、定期テストなどでは準備に時間が足りなくなり、あまり良い点がとれない場合もあります。

うちの塾の授業は、後者の取り組み方でできる生徒を育てることを念頭において行っています。より本質的な基本事項の意味を理解することにより、少々ひねった問題に対しても対応出来る「やわらかい頭」を持ってもらおうというものです。

小学校高学年から中学生の時期は、人生のうちで最も記憶力の高まる時期です。しかしその力は英単語や社会の用語などを覚えることに使って、理解することで対応出来る分野は過程にこだわってほしいのです。そして、実はこの過程を重視する際に必要な論理力も小学校高学年から中学生にかけて伸び始めます。この芽を自分で摘んでしまっちゃはいけません。